

Microsoft Windows 95 での PPP 設定方法

医学部保健学科 中山 和也

以下の文章は、私が実際に行った設定方法をまとめた文章です。この文章が、これから PPP 接続を行う方の手助けになれば幸いです。なお実際に設定を行う場合には、それぞれの機械に付属の説明書などをよく読み、各自の責任で設定を行ってください。（機械によっては、ハードやソフトが別売りになっていたり、付属されていても、別途にインストールする必要があるかもしれません。この文章は、あくまで一つの例にすぎません）

1. 始めに

この文章では、Microsoft Windows95 (以下、Win95) での PPP 接続方法、特に金沢大学総合情報処理センター (以下、情報センタ) への PPP 接続について述べる。情報センタへの接続に関しては、情報センタと連絡をとり行うこと (PPP 接続の手続きが必要なため)。

なお、筆者は Win95 を使用して日が浅い初心者なため、間違い等が多々ある可能性がある。また記述に関して、長いメッセージ等は、省略している場合がある。

2. 使用機械

この文章を書くにあたって使用した機械は、次の通りである。

東芝製 BREZZA 5120CI

Pentium 120MHz HDD 850Mbyte RAM 16Mbyte 2nd Cashなし

FAX モデム (モデム:28.800bps)

CRT やソフト等を同梱した、俗に "オールインワンタイプ" と呼ばれているものである。

よって、ハードの設定や、ソフトのインストール等を行う必要はなかった。

他機種では、モデムの接続及び設定をすることはもちろんのこと、Win95の説明書を見てダイヤルアップネットワークをインストールしておくこと。PLUS!を持っている人は、インターネット関連のツールを全てインストールしておくこと。

3. ソフト設定方法

3.1. PPP の設定を行うため、次の順序で設定ファイルを開く。

【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】→【新しい接続】

3.2. 接続名に適切な文字を入力する。（たとえば、センタ）

3.3. モデムの選択は、各自の機器にあわせること。

- 3.4. モデム選択欄の下にある、**"設定(C)..."**をクリックする。
- 3.5. モデムのプロパティというウィンドウが開く。そこで、**【オプション設定】**を開く。
"接続の管理"の"呼び出してからターミナルウィンドウを表示(F)"を有効にする。
【オプション設定】以外の**【情報】**や**【接続】**は各自の機械にあわせること。また、状況管理の**"モデムの状態をウィンドウ表示(S)"**も有効にしておくといよい。その後、右下の**"OK"**をクリックしモデムのプロパティを閉じる。
- 3.6. 新しい接続のウィンドウに戻るので、**"次へ"**をクリックする。次のウィンドウでは、接続先の電話番号の設定を行う。市外局番(情報センタの場合、0762)や電話番号(情報センタの場合、346938)を入力する。国番号は当然日本(81)である。
- 3.7. **"次へ"**をクリックする。すると、3.2で入力した接続名で設定ファイルを保存するという内容のメッセージが出る。**"完了"**をクリックする。

以上で、**【ダイヤルアップネットワーク】**内に3.2で入力した名前の設定ファイルが作成される。
次に、IPアドレスの設定を行う。

- 3.8. **【ダイヤルアップネットワーク】**を開く。
【マイコンピュータ】→**【ダイヤルアップネットワーク】**
- 3.9. 設定又は確認を行いたいアイコン(3.2の例では、センタというアイコン)の上にマウスを持っていき、右クリックを行い、プロパティをクリックする。
- 3.10. **"接続の方法(N)"**のところの**"設定(C)..."**は、3.4で設定したものと同一であるので省略。
- 3.11. **"接続の方法(N)"**のところの**"サーバの種類(T)..."**をクリックする。
"サーバの種類(S)"は、**"PPP,Windows 95,Windows NT 3.5, インターネット"**である。
なお、使用できるネットワークプロトコルは、**"TCP/IP"**を選択する。
- 3.12. 次に、**"TCP/IP 設定(P)..."**をクリックする。
"サーバが割り当てたIPアドレス(S)"が有効になっていることを確認する。
次に、**"ネームサーバアドレスを指定(M)"**をクリックし、有効にする。
プライマリDNSに 133.28.20.12 を入力する。
次に、**"OK"**をクリックし**【TCP/IP設定】**を閉じる。同様に、**【サーバの種類】**と3.2で指定した接続名、ここでは、**【センタ】**を閉じる。

次に、ダイヤル方法の設定を行う。(プッシュホン回線 or ダイヤル回線等)

- 3.13. **【ダイヤルアップネットワーク】**を開く。
【マイコンピュータ】→**【ダイヤルアップネットワーク】**
- 3.14. 設定を行いたいもの(3.2で指定したもの、ここではセンタ)をダブルクリックする。
- 3.15. 接続というウィンドウが開くので、その中の**"ダイヤルのプロパティ(D)..."**をクリックする。
所在地情報が表示される。各自の環境に合わせて設定を行うこと。特にダイヤル方法、トーン信号かダイヤ

ル信号かを確認し設定すること。設定終了後、"OK"をクリックする。

以上で、ソフトの設定は終了する。

4. 使用方法

4.1. 【ダイヤルアップネットワーク】を開く。

【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】

4.2. 接続先 (3.2 で指定したもの) をダブルクリックする。

4.3. "ユーザ名"と"パスワード"は、本来入力すべき項目であるが、前述までの設定では有効でないため、この2つの欄は無視する。なお、電話番号が正しいか確認すること。(情報センタの場合、346938)

(注意:上記のユーザ名とパスワードは、6. 追加情報で出てくる。)

4.4. "接続"をクリックする。

4.5. 無事接続するとターミナルウィンドウが開く。

4.6. しばらくすると、ダイヤル後のターミナル画面という画面が現れ、login名とPasswordを聞いてくる。この2つには、センタに登録したもの (PPP 登録時のもの) を入力する。誤入力等でloginできなかったときは、NO CARRIERと表示される時がある。この場合、接続を切ること。

4.7. loginできた場合は、筆者の場合えたいの知れない文字がターミナルウィンドウに表示された。(文字化け???)この後、"続行"をクリックする。

4.8. しばらくすると"ネットワークに接続中"とメッセージが現れる。その後、通信状態(転送レートや接続時間等の情報)を示すウィンドウが現れる。これで、IP接続となる。

4.9. 接続が完了した後は、telnetやWWWブラウザ等が使用可能となる。

4.10. 終了時は、ネットワーク関連のアプリケーションをすべて閉じ(終了させる)、"接続の切断"をクリックする。

5. 注意点

情報センタに接続する場合、接続時にlogin名とpasswordが必要である。これらに関しては、情報センタにPPPに関する申請を行うことで得られる。

特に筆者の場合、"呼び出してからターミナルウィンドウを表示(F)"を有効にすることに関してかなり悩んだ。この設定以外のところは、見ればすぐわかると思う。

6. 追加情報

A. ダイヤルアップスクリプトの設定方法(ダイヤルアップスクリプトツールを持っている人)

(4.3 で失敗したloginが成功する)

- A.1. ダイヤルアップスクリプトツール (【スタート】→【プログラム】→【アクセサリ】の中にある) がインストールされていることを確認する。

最初に、3.5 での設定を変更する。(ターミナルウィンドウを表示しないようにする。)

- A.2. 【ダイヤルアップネットワーク】を開く。
【マイコンピュータ】→【ダイヤルアップネットワーク】
- A.3. 設定又は確認を行いたいアイコン (3.2 の例では、センタというアイコン) の上にマウスを持っていき、右クリックを行い、プロパティをクリックする。センタというウィンドウが開く。
- A.4. "接続の方法 (N)" のところの "設定 (C) . . ." をクリックする。
- A.5. モデムのプロパティというウィンドウが開く。
そこで、【オプション設定】開く。
"接続の管理" の "呼び出してからターミナルウィンドウを表示 (F)" を無効にする。

必ず、"呼び出してからターミナルウィンドウを表示 (F)" を無効にすること!

- A.6. その後、右下の "OK" をクリックしモデムのプロパティを閉じる。
センタというウィンドも "OK" をクリックし閉じる。
ダイヤルアップというウィンドウも閉じる。

次に、設定ファイルを1つ作る。

- A.7. テキストエディタ (メモ帳等) を起動し、次の内容の接続手順 (これをスクリプトファイルというらしい) を作成し、SCP という拡張子のファイルネーム (例えば、センタ.SCP) で、
¥Program Files¥Accessories というディレクトリに保存する。
もちろん、¥Program Files¥Accessories というディレクトリが、Aドライブならば、
A:¥Program Files¥Accessories に入れる。
(絶対にここでなければいけないということはないが、A.9 での設定がちょっとだけ楽になる)

センタ .SCP の中身は、以下の proc main という行から、endproc という行までである。

```
proc main
    waitfor "ogin:"
    transmit $USERID
    transmit "^M"
    waitfor "word:"
    transmit $PASSWORD
    transmit "^M"
endproc
```

次に、上記のスクリプトファイルが動くように設定する。

A. 8. 次の順序でダイアルアップスクリプトツールを開く。

【スタート】→【プログラム】→【アクセサリ】→【ダイアルアップスクリプトツール】

"接続(C)"内に、3.2で作成したもの(ここでは、センタ)をクリックする。

青地に白い文字になる。

A. 9. スクリプトの"ファイル名(N)"には、上記の(A.7で作った)スクリプトファイルをフルパスで書く。

"参照(B)"というところを押すと、¥Pogram Files¥Accessoriesにあるファイルが表示されるので、その中の該当ファイル(ここでは、センタ.SCP)をクリックして選んでもよい。

これで、"接続(C)"には、3.2で作成したもの(ここでは、センタ)が選ばれ、スクリプトの"ファイル名(N)"には、上記の(A.7で作った)スクリプトファイル(ここでは、センタ.SCP)が入る。

A. 10. スクリプト下の、"最小化したターミナルスクリーンを起動する(M)"を有効にする。

A. 11. "更新(A)"をクリックする。

これで、接続先(センタ)と接続手順を記述したスクリプトファイル(センタ.SCP)が関連づけられた。

以上で、ダイアルアップスクリプトの設定は終了した。

使用方法は、4.3での"ユーザ名"と"パスワード"の欄に、登録したもの(PPP登録のもの)を入力する以外は、4.使用方法と同じである。

当然、ターミナルウィンドウで現れた、えたいの知れない文字化を見ることはない。(ターミナルウィンドウ自体が現れない)

いかがでしたでしょうか？

設定自体は、3.のみを読めばできます。6.に出てくるダイアルアップスクリプトツールは、必ずしも必要ではありません。

なお、センタにあるワークステーション(kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp)にあった29378bytesのファイルをFTPでとってきたところ、転送速度は、1.88Kbytes/secと表示されました。

最後に、この文章を書くにあたり、松本先生、大石先生、小野口先生、北川先生には、大変お世話になりました。ありがとうございました。